



The Tokyo Branch Letter No.73

RSCDS 東京ブランチ

東京ブランチレター

November 20006

A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society

Editor: Shigeko Igarashi, 5-12-35-207, Kitamachi, Warabi-shi, 335-0001 Tel/Fax 048-445-1527

### 2007年東京ブランチ合宿

2007年2月17日(土)～2月18日(日)

石川島研修センター (神奈川県綾瀬市)

ティーチャー : アン・ディックス (20周年記念合宿に来日された指導者) 他

ピアニスト : 小海弘子 他

会費 : ¥15,000 東京ブランチ会員 ¥16,000 東京ブランチ会員以外

コース : A アドヴァンス B 左記以外

### ティーチャー スキルクラス

2007年2月16日(金)～2月17日(土)

石川島研修センター (神奈川県綾瀬市)

ティーチャー : アン・ディックス

ピアニスト : 小海弘子

会費 : ¥16,000 東京ブランチ会員 ¥17,000 左記以外

### 第1回ソーシャルダンシングクラス報告

10月28日千代田区体育館5階で28名の参加者があり、懐かしい方達の参加に楽しげな話が弾んでいました。

ほとんどの方にアンケートを書いていただき、これからの指針に役立てたいと思います。

1. ソシャルダンシングクラスはあったほうが良い		26人
年間何回ぐらいが適当と思われますか	4～6回	15人
何曜日がいいと思いますか	土曜日	16人
時間帯の希望	夜 12人 午後	9人

2. どのような内容のクラスを望まれますか？ 沢山の意見が寄せられた中から  
 ・今回と同様      ・厳しくかつ楽しく      ・クラスでなくもっとゆったりと自由にして全員入らなくてもよい      ・従来のクラスより、もう少し気楽に沢山踊りたいと思う      e t c.
3. 次回も参加されますか      はい      26人

ご協力ありがとうございました。

## 2007年 New Year Dance

1月7日(日) 1時30分~4時30分

東京都北区赤羽会館 赤羽東口下車5分      ¥1,000

### New Year Dance Party Program

St. Andrew's Fair	J32-3C	RSCDS 1982
Inverneill House	R32-3C	Book 35
Miss Milligan's Strathspey	S32-3C	Leaflet
Kendall's Hornpipe	J32-2C	Graded
Miss Johnston of Ardrossan	R32-5C	Goldring
Jean Martin of Aberdeen	S32-3C	Magazine
Lady Dumfries	R32-3C	MMM-1
12 Coates Crescent	S32-4C	Book 40
Major Ian Stewart	J32-3C	Book 35
Eileen Watt's Reel	R32-3C	Magazine
The Gentleman	S32-3C	Book 35
Piper and the Penguin	R88-4Cs	Scotia
Light and Airy	J32-3C	Book 6
Gang The Same Gate	S32-3C	Book 36
Reel of The 51 <sup>st</sup> Division	R32-3C	Book 13
Extra Wind on Loch Fine	S32-3C	

## New Dance 講習会初参加

荒 水 啓 子

9月3日とても楽しい講習会でした。初めての参でしたので、ちょっと緊張もありました。しかし、講師の先生方の笑顔、参加されている方々の笑顔の中にスムーズに溶け込め、たのしく踊ることができました。今回、紹介されたダンスは3カップルで流れのスムーズな楽しい踊りが多いように思いました。各講師の方々のわかりやすい指導と私たちの動きをスムーズに助けてくれるピアノ、学習することの多い講習でした。「ダンスは喜びである」「誰もが楽しみを分かち合う仲間である」とマニュアルに書かれていましたが、その実感が出来、楽しく踊り、新しいお友達もでき楽しみが増えました。「笑顔」楽しみを分かち合う仲間の一人として大切にしていこうと思います。

以上コメントが寄せられました。冷房のない体育館の講習会でお疲れ様でした。

## 運営委員会報告

5月17日 前期運営委員会

- (1) World Day of Dance 2006  
4月29日東京都フォークダンス連盟との共催。  
実行委員長の大井より報告
- (2) JEC-2006 報告  
5月7日試験全日程終了。Unit Part 1 全員合格  
今後のスケジュールについて
- (3) 総会準備  
次期委員候補、委員の役割について
- (4) ブランチレター、マガジン邦訳の発送予定日
- (5) New Year Dance の会場について

6月10日 第1回運営委員会

- (1) 委員役割決定  
クラス I (土) 担当 五十嵐                      クラス II (月) 武内  
クラス II (土)                      中 田                      クラス III (月) 荒井  
編 集                                      加 藤                      ショップ                      青木 [保留]
- (2) ブランチクラス会場決定の場合、担当者はチェアマンとセクレタリに連絡する。  
ティーチャー資格のある人がどのクラスへ参加しても、名札を着用した場合、参加費は500円となる。クラス活性化を図るため、多数の参加

を願う。

- (3) マガジン1・2の日本語版の発送作業  
6月15日東京中央郵便局地下にて
- (4) 経費節減について  
印刷方法の見直し、発送業務の見直し等検討
- (5) 2007年2月合宿、講師 Ann Dix エールフランスで来日
- (6) 本部からのアンケートでランチが直面している問題の回答に
  - ①会場確保が困難
  - ②ティーチャー数が多くなったが、協力できる人が少ない
  - ③マガジンが本部より直送されるので会員が喜んでいる
  - ④Weekend Classなどで、外国からティーチャーを招いているので、  
本部とランチの間の距離は感じていない  
本部の Management Board の当ランチ担当は Marjorie Hume に決定
- (7) Exam 2006 を3ランチ合同で行った為、友好が深まった
- (8) 定例運営委員会の日程決定
- (9) 各クラス会場利用申請担当者決定

#### 6月15日 第2回運営委員会

- (1) 新旧委員引継ぎを行う
- (2) World Day of Dance の会計報告、東京都フォークダンス連盟よりあり
- (3) ランチレターNO.72 と会報NO.23 は鳥山さんの応援を得る

#### 7月1日 第3回運営委員会

- (1) 役割分担変更及びクラス会場申請等確認状況報告  
New Dance の昼食用部屋申請済み  
New Year Dance の会場 2007年1月7日赤羽会館確保
- (2) 年会報の進行状況確認
- (3) 通信費コスト低減の検討
- (4) 2008年 Weekend Class の講師検討
- (5) 3ランチ三役会議日程調整
- (6) Exam2006委員会による説明会 8月20日(3ランチ合同)  
終了後ティーチャーズミーティングを開催したい。参加はFull資格のみ  
**内容**
  - ①レベルの向上(ティーチング)
  - ②理解、知識の統一

③ダンシングのブラッシュアップ

- (7) クラス担当ティーチャー募集 (2006年11月～2007年4月)  
アンケートをファックスで送る  
ティーチャーとしての意識を高めるためにクラスで名札着用を勧める
- (8) 韓国からSCDの講習依頼  
8月10日～15日 五十嵐、中田、村上、鳥山が参加
- (9) ブランチのホームページについて  
更新が必要なときは担当の吉澤さんに連絡
- (10) 総会で承認された規約改正を本部に報告

8月5日 第4回運営委員会

- (1) 発送作業の内容、実施の検討  
同封書類の内容確認、年会報No.23他  
ヤマト便で発送、各種のSCDグループが担当  
江ノ島スロチオ シェシスルから発送作業のボランティアの申し出あり
- (2) ブランチクラス担当者決定  
8月14日ビギナーズクラス指導担当荒井に変更
- (3) New Dance 講習会の検討  
9月3日10時～14時 三巻勤労福祉会館  
必要事項等検討確認
- (4) JEC-2006  
会計報告及び今後の課題等委員の境さんより報告
- (5) Social Dancing Class 開催  
第一回を10月土曜夜、場所が確保できれば行う
- (6) Weekend Class 2008年について  
候補者のリストアップ、場所等検討

8月26日 第5回運営委員会

- (1) New Dance 講習会  
正式に発表されているダンス  
1.Eileen Watt's Reel 2.Eileen Watt's Strathspey  
サマースクールのティーチャーズクラスで取り上げられたダンス  
1.Jean Martin of Aberdeen 2.The Craven Jig  
小海さん作曲のダンス  
A Senior Moment  
正式でない2ダンスについては解説書がでた時点で表現の違いがあった場

合、レターで発表する

講師 佐藤仁美、近藤幸子、武内ヒロ子

ピアニスト 本守明美

会場の体育館、機材等の確認

- (2) ボランティアグループによる発送作業の結果報告と今後の方針  
船橋グループによる内容物の重さの関係で、思ったほどの経費節減にならなかった。クロネコメールで次回も発送の予定
- (3) 3 ブランチ役員会議の報告  
Exam が3 ブランチ協力で成功に終了  
合同行事を行う機会が増えるよう強調を強め、連絡を取り合っていく
- (4) Exam 説明会の報告  
2005 年 9 月改定版に基づき説明  
次期試験について 1 年以上前にトレーニング、試験を行うことを決め、会場、Tutor 等早めに手配する必要あり
- (5) New Year Dance について  
会場、プログラム、ピアニスト他検討
- (6) ブランチ会費値上げの検討  
印刷・通信費のみを考えても現状の会費ではまかなえないので値上げする  
委員会にて過去 4 年間の状況を見てから金額を設定する
- (7) Step Dance の 1 ターム制と間口拡大の対策  
指導者の要望で、3 ヶ月 1 ターム制になっているので来春まで続行  
今後の方式、講師謝礼等検討続行
- (8) Social Dancing Class について  
対象者 長年踊っていて知識、経験の豊富な人  
踊ることが好きでダンスを十分楽しみたい人  
体力的に無理でない人  
指導 フォーメーションはよく知っていることが前提で、ポイントだけ指導。ステップは理想を言うが、無理はさせない。  
動きの激しいものは避ける。
- (9) その他 RSCDS 本部より Tutor Class に関するアンケート  
6 ヶ月以上の準備期間があれば日本での実施について協力は惜しまない。  
8 月に行われた韓国での SCD の指導についての報告

10月7日 第6回運営委員会

- (1) 9月3日 New Dance 講習会の反省  
開催時期、会場内の備品、進行の方法、役割分担等
- (2) New Year Dance について  
1月8日 赤羽会館 プログラム等
- (3) 遠隔地居住のティーチャー及びピアニストの登用について  
熟考の上予定表を作成  
1クラスを2人で指導した場合の指導料他
- (4) ブランチ会費値上げについて  
現行の2000円から500円値上げ2500円とする。支出について再度検討し、今後の値上げに移行しないよう努力する
- (5) 2007年2月のウィークエンド・クラス等について  
指導者 Ann Dix  
2月12日成田到着 2月20日帰国  
ティーチャー・スキルクラス 2月16日—17日  
ウィークエンド・クラス 2月17日—18日  
石川島研修センター
- (6) 2008年2月のウィークエンド・クラスについて  
会場、指導者等について検討、交渉に入る
- (7) ブランチ賞候補者について  
レターに掲載、募集を計り委員会で検討
- (8) 10月28日 Social Dancing Class の役割分担  
各クラスで取り上げられたダンス名の公開  
Featured Dance( '06～' 07)の掲載

## ハイランド・ゲームズを観戦しました

大井 富佐子

10月8日、この秋初めての雲ひとつない群青の空のもと、千葉県幕張の神田外語大学のキャンパスで、第24回 Japan Scottish Highland Games が開催されました。JR 海浜幕張駅から、緑豊かな植え込みに囲まれてそびえ立つ洗練されたデザインの企業のビルやホテルを眺め、その風景を楽しみながら徒歩で約15分。樹齢を重ねた濃い緑の森が目に入ってきたところでキャンパスに到着。

朝のうちは絶好の天気と思えましたが、会場に近づくにしたがって地上を渦巻く強い風。前線の影響とのことで、幼児に配られたカラフルな風船があらこちらで風にさらわれていました。このような状況下での各種ゲームやカントリー・ダンスやバグパイプのコンペティションは、ジャッジ（カントリー・ダンスは Jim Rae）、そして運営スタッフにとってさぞご苦労が多かったことと思います。とくにバランス保持に気を使うステップダンス、ハイランド・ダンスなどは全身に強風を受けながらも健闘していた姿に感動しました。中でもとくに印象が深かったのは2組で競われた8名のブラック・ジャケットの男性ダンサーだけのハイランド・ステップを交えての“The Reel of The 51st Division”初めてのプログラムと伺いましたが圧巻でした。ブランチレターにあった Bulletin No. 82 の和訳注にあった“リーリング”を思い出しながら・・・また若いダンサーたちノ躍動的な動きの中にダンスに対する真摯な取り組み方と熱意が伝わってきて、近い未来を思い描き頼もしいものを感じました。プログラムの中ほどには恒例のコミュニティ・ダンス・タイムが設けられており、来年は Jim Rae のコールによっていくつかのダンスを来場者一同で楽しめる企画を予定しているそうです。

全部を観戦、観賞することは出来ないままでしたが、入り口で応対していた当ゲームズのトレジャーの高橋愛朗さん（国際ロータリー・クラブ 副委員長）のお話では、3日前まで降り続いた大雨のためグラウンドが使用不能となったのでフット・ボールゲームが中止になり、2200名ほどの予想観客が残念ながら1500名ほどになってしまったそうです。どうりで、奥のグラウンドがキンダーガーデンさながらに親子連れでにぎわっていました。また、最後に「近年は本国の人達の参加も多くなりました。来年はぜひ大勢の方に、来て、見て、味わって、スコットランドを知っていただきたい」と熱意あふれるメッセージをいただきました。

来年は10月7日（日）の開催で、ジャッジは今年同様に Jim Rae の予定とのことです。アクセスは東京駅から京葉線の急行で45分。さわやかな秋の一日、来年は、広々とした芝生の会場で陽を浴びながら、Highland Games を楽しみませんか！



## 全国のスコティッシュダンス愛好者の皆様へ 第25回東京ハイランドゲームズへのお誘い

ジャパン・スコティッシュ・ハイランド・ゲームズ  
組織委員会 副委員長 岡田昌子

今年も幕張会場に、沢山の方がご来場くださりまして本当にありがとうございました。東京ハイランドゲームズは来年25周年を迎えます。第1回目以来、日本中から沢山のSCDが集まって、今日までゲームズを支えてくださいました。現在東京ランチや埼玉ランチで活躍しておいでの方の中には、ステージに立ってSCDコンペティションで技を競われ、優勝杯を獲得されたグループが幾組もあって、その栄光の思い出は今も新たです。第25回大会は、来年も10月7日(日)、千葉幕張の東京外語大学(KUIS)で開催されます。SCDジャッジは、RSCDSの著名な教師・バグパイパーであるJim Raeです。

SCDコンペは、ミス・ミリガンもその価値を高く評価しておられました通り、挑戦への過程で得られるダンサーの技術的向上、SCDへの理解の深まり、チームワークとソーシャル性の鍛錬、音楽への同化等評価の対象となる重要項目は、すべてソーシャルダンスとしたるべきSCD本来の理想を目指しています。コンペに出た経験をお持ちの方は、皆さんその効果が日常のクラス活動に良い結果をもたらしたことをご存知です。

コンペは、女性8人編成の「レディース」、男性女性4組編成の「ミックス」の2クラスで、二つは別の競技ですから、レディースとミックスに同一人が重複出場することは問題ありません。ただし同一競技で重複出場すると一方が失格になります。課題曲はストラスベイ1曲とリールかジグ1曲です。このほかに、特に男性ダンサーだけによる、51師団リールのコンペが今年から始まりました。栄誉ある「Jim Rae クェイヒ杯」争奪戦です。出場者は会場で当日応募、昼休み1時間半の間に、組み分けされた即席チームでの練習を経てコンペに挑むというものです。

Jim Rae氏の言う「誰もが気楽に参加でき踊る者も観る者も共に楽しめる質の高いコンペ」を目指します。年々応募者が増えてスコティッシュとジャパニーズの混合チームも実現し、ゲームズの人気種目になるに違いありません。来年ゲームズに来られる男性は、どうかキルトをお忘れなく。Jim Rae氏にはコンペの課題曲を早めに選定して頂き、お知らせいたします。皆様どうぞ、来年のコンペには奮ってご参加下さいませ。大勢の皆様にお目にかかれませう、心から願い、楽しみにお待ちしております。

## Exam 体験者の報告

今年は旧制度（プレリムとフルサティフィケート）と新制度（パート1とパート2）の移行の年でした。パート1とフルサティフィケートが日本で行われ、パート2の試験がSt. Andrewsのサマースクールで実施されました。体験した方々より感想などが寄せられました。

これから挑戦しようと考えている方への準備、参考になるよう掲載します。

### ユニット2と3を受験して

片岡文子

最初は一人ずつステップをみてもらうことから始まった合宿。いつも出来ていたはずの“Ready……and !”がピアノの音に合わず “エッ” どうして？ と思いながら次の人に助けられてようやくいつものペースを取り戻し、ホッとしたスタート。これから先どうなるのか不安の中、メンバー全員が終わった後に、一人一人の悪いところを真似て実際にステップを踏み、的確なアドバイスをくださるチューターに魅せられ、このようにすればよかったんだと大変勉強になりました。

土曜、日曜（1泊2日）の合宿が3回あり、2日間精一杯練習することが出来ました。常に前回のレベルを維持すべく、前向きでチャレンジしたことが次第にメンバーの楽しい雰囲気となっていました。

夜もチューターを中心にそれぞれのランチの話で盛り上がり、日が経つにつれメンバーに一体感が出てきて、最終試験に向けての練習にもチームワークが出てきました。

私の実技試験は、くじ引きで11人中11番でしたが、控え室でメンバー一人ひとりを見送り、終わって帰ってきたときの満足した笑顔にラストも悪くないかな？と感じていました。

新試験方式・3ランチ合同・各個人の認識の違いなどありましたが、メンバー全員で乗り越えることが出来ました。メンバーがここまで纏まったのはチューターの存在でした。ダンシングはチームワークの勝負ですが、実技は個人の能力と努力といえます。チューターはダンシングの練習のときから一人ひとりの性格を把握し、合宿中ほとんど睡眠をとらずに私たちのことで頭を悩ませ、メンバー11人が疲労困憊しているときに、各人の力を伸ばすために “光” を与えてくださいました。

初めての体験でしたが、日本語で勉強できたことはとても分かり易く得るものが多かったとおもいます。そして、メンバーが疲れきっているときに差し入れてもらった“スイカ”最高に美味しかったこと、ボランティアダンサーの優しい笑顔など大勢の方々にご協力を戴き心より感謝いたします。

## 美味しかった「はやて」のビール

清 水 豊

私の受験目的は教師の資格を目指すというよりもキチンと SCD の基礎を覚えることでした。

私が SCD を始めたのは 1969 年と古く、経験年数だけはい多いのですが仕事優先の生活が長かったこと、SCD は楽しく踊ればよいとの思いから本格的な研修は一度も受けたことがありませんでした。現役引退を数年後に迎えるのを機会に一度は SCD の基本をかじっておこうとの気持ちからユニット 1、2、3 に臨みました。

2 週間程度の間隔で開催される週末の一泊研修が東京近郊で行われましたから、これに仙台から通う生活が 2 月から始まりました。この週末研修を終え東京駅で缶ビールとおつまみを購入し、東北新幹線「はやて」発車と同時に飲み始めるビールのなんと美味しかったことか！ 大汗をかき、膝が大笑いしながらきしむハードトレーニングは還暦青年に束の間の至福の時を与えてくれるのでした。至福の夢のうちに仙台を乗り越す恐れがあったので、いつも隣に空った方に起こしてくれることを頼む事も習慣となりました。

チューター、小山寺恵さんも五十嵐成子さんも私のような受験生をみて「ものになるのか、合格できるのか」と頭をかかえたに違いありません。ステップは自己流、姿勢は山笠、行動は蠶玉、賑やかなので仕方ありません。でも一つだけ、SCD を楽しむ気持ちだけは持ち続け「はやて」のビールを夢に終わらせないため、毎水曜日の夜のアイリッシュ・ローバーズ会で 20 分間の実習の機会を与えられ、これとは別に毎木曜日夜に私の練習のためにボランティアで 10 名程度の会員に協力を得て研鑽を続けました。

パート 1 受験を終えるに当たり、小山、五十嵐の両チューター、ピアニストの村上さん、司音の蒼さん、3 ブランチの担当者の皆さん仙台アイリッシュ・ローバーズの皆さん、そして会社同僚の皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## イクザム 2006 体験記

渡 部 多美子

今回は初めての 3 ブランチ合同試験であり、フルサティフィケートとして最後の試験となりました。プレリムのときはレッスンの間にチューターから筆記試験のことを勉強できました。が、今回は初めに筆記試験を行うので、どのような内容が出るか分からず大変不安でした。1 月の説明会で過去の問題とホームワークを頂き、3 月に 1 泊の合宿を開いていただきました。この時にホームワークの各人の回答を聞き、新しいマニュアルの音楽 (8-5) についても聞いたことは大変有り難かったです。試験に対する不安が少し軽くなりました。実際の試験は傾向としては過去の問題とほとんど同じ、それでも 2 時間では足

りなくて書くだけで精一杯でした。ただ筆記試験を先に済ませたことで試験の大半が終わったくらい気が楽になったものです。レッスンは4月29日から5月4日までの6日間、5日午前がダンシング、午後から7日にかけてティーチングの試験が行われ、その間に3つの会場を移動する日程でした。

1日目は河口湖畔の民宿堀幸。部屋は2人か3人の相部屋で勉強する机も無く、書き物をしたい時は食堂のテーブルを使うのが一番の方法。必然的に皆が集まり交流の場となっていました。

Aクラスでは課題曲やフォーメーションのポイントの確認を皆でしたことがとてもいい思い出です。会場が変わるに従い交流の機会が少なくなり淋しく思いました。クラスは2つに分かれ、チューターがAクラスはブルース・フーザー、Bクラスはジーン・マーチン。ピアニストはそれぞれ笠間晶子さんと小海弘子さんでした。各クラスともに男性2人、女性6人で私はAクラスでした。AとBでは随分違うやり方だったようです。

課題曲は8タイムでの練習でしたが、朝一で The Golden Pheasant や The Gate of Edinburgh を踊ったときには、かなりきつかったですね。

ティーチングのレッスンまず基本ステップ、フォーメーションの5分間実習、特別な動きも含めたステップ(移動に使うセッティングステップなど)、そして2つのフォーメーションのリンク、最後に32小節のダンスの実習という段階を踏んでいきました。短い実習を何回か重ね、その間に1人1人への批評や改善の仕方などを聞くことができ、ティーチングの1コマ1コマを理解していくことができたし、とても力になったと思います。

私にとっての難関はスキル・エクササイズとリズム・コーチングでした。特にコーチングではまず言葉のバリエーションが非常に少ない、英語が出てこなく途中から日本語になったり言葉が音楽について行けなかったりという状態でした。コーチングの言葉はブルースも一緒に考えてくれたのですが、それをリズムカルに口にすることができなくて四苦八苦、いつも口にし続ける大切さを痛感しました。

最後に食事について一言。出される食事は立派でしたが菜食者の私はほとんど食べることができず、9日間の合宿はかなり厳しいものになりました。

堀幸の4日間のご飯と持参の菜食者用のインスタント味噌汁で過ごしました。フォーラム21では朝のバイキングで生野菜のサラダがメニューに加わりました。サンブラザでは近くのコンビニエンスストアで食べられる物を買うことができました。単調だった食生活が少し改善されたという状態になりました。日本では菜食をする人が少なくどこに行くにも食事のことがネックになります。非常食を持参することなく、旅行、合宿、パーティと気軽に出かけるのが夢です。もし次に同じような菜食者で受験される方がいらしたら食事の面で少しは力になれるかもしれません。

最後の最後になりましたが、実行委員、クラスのお世話係、通訳、ピアニスト、ボランティアその他すべての関係者の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 私のフル受験

山田美代子

2006年1月末の説明会を皮切りに、3月の2日間の小山氏による自主トレーニング、4月1日の筆記試験を経て、いよいよ29日から5月7日までの、トレーニングとテストが始まった。

雄大な富士山が一望できる河口湖の民宿。この辺はまだ桜、水仙、つつじなどが咲き誇っている。上下2つの大きなホールがあり、床の状態も上々。私は2年前の左膝の手術後約1年間、ダンスのブランクがあったが、少しずつブランチクラスに出席できるようにし、特にビギナースクラスの参加は大いに勉強になった。だが、左膝を庇いながらやっていたためついに右膝もアウト。3月末頃からは、毎日のようにクリニックに通い理学療法を受け河口湖にはバッチリテーピング、湿布塗薬等持参となった。葛飾の尾身さんからは「本番でベストの状態にしろ！」と叱咤激励されてコールドスプレイの差し入れを受けた。そういう訳でチューターのジーンに会うとすぐに、足の状態を説明し、ダンシングは歩いたり、休んだりさせてくださいと、申し入れ了解を得た。

ジーンは、やさしくエレガントなレディでいつもニコニコ、でも急所はしっかりと教えてくれる。女性6人男性2人からなるわがBクラスは、ピアニストの弘子さん（いつも笑顔で応援してくれる）通訳の百代さん、世話役の稚子さんというベストメンバー。皆さん私達のために、懸命に支えてくれた。特に稚子さんには私ともう一人足の悪いフサエの代役をしてもらい感謝！プログラムは、朝九時から夜九時ごろまで、午前中は主にダンシング、その後ティーチングの練習や、以前から出ている宿題の解説、ティーチングプランの作り方等々。毎日翌日のティーチングするダンスの割り当てがある。MMMからのダンスが多かった。夜、風呂の後が大仕事。テーピングをドライヤーで乾かす、マッサージ、湿布の張替え等々

5月3日にバスでフォーラム246へ移動。ここはホテルなので部屋は良いのだが、ダンシングルームの床に問題が。1m四方位の板を敷き詰めた床で滑るし怖い。でもB組のダンシングテストの時には床はロジンで真っ白。どうかゴールデンフェザントが当たりませんようにと祈りつつ、パートナーのよし子さんと、カンブリオリール、ヴィレジリール、フォローミーホームと無事踊ることが出来た。B組のチームワークはGood。その日のうちに中野サンプラザへ移動。地方の人達は、こちらのホテルに宿泊なので、みんなで客室前のせまい廊下で課題ダンスを1人ずつ練習。みんなで意見を出し合いこれもグットチームワーク。私はテストが7日の朝一番なので、その日帰宅。翌日クリニックに行き治療を受け主婦業をし、ティーチングプランが出来上がったなら夜中になっていた。早めに会場に到着。腹式呼吸をして気を落ち着かせる。ジーンに励まされ部屋に入ると、皆さんが笑顔で迎えてくれた。私は大きな声で「グッドモーニング！」ティーチングに全力投球すべてが終わった。

## パート2 受験報告 St.Andrews

2006年7月30日～8月13日サマースクール

春日ケン

7月30日私たちのパート2クラスはチューター・アレックスグレイ、ピアニスト、パットクラーク。

生徒14人、国籍はイングランド4人、スコットランド2人、カナダ2人、南ア1人、ポルトガル1人、スイス1人、フランス3人。アレックは相変わらずウェールズ訛りの早口で捲くし立てる。パットはアレックと大学が同級生でビシビシ言うが、時々スコティッシュ訛りがでるので神経が休まらない。アレックの一貫した教え方・Demonstrate！ Teaching Point！と巨体を揺すってドナリ捲る。一つ一つのフォーメーションについて単に踊り方を指導するのではなくティーチングポイントは何かと鋭く追及する。ティーチングポイントとともにトランジション足の踏み変えも容赦しない。一步たりとも疎かに出来ない。徹底的に鍛え上げる。まったく気が抜けない。アレックのフォーメーションのレッスンの後、14人の生徒を4グループに分ける。4人x2グループ、3人x2グループ。各グループに午前午後一つずつ課題ダンスが与えられ、グループで検討10分程しか時間が無い。すぐさま代表者がティーチングの練習、代表者は毎日交代する。他のグループはボランティアの生徒として参加するので休んで自分達のダンスを検討する暇など無い。時間は極めて厳しい。チューターの目が鋭く光っているので気が抜けない。毎日各グループに課題ダンスの宿題が出て翌日ティーチングレポートを提出する。各人のティーチング練習のあとチューターは全員を集めて、今のティーチングはどうであったか、良い点、改善すべき点を適格に指摘する。デモの改善点があれば自らデモをして教える。この人の一貫した指導はティーチングポイントは何か、しっかり言葉と動作で示せということ。実質10日間におたる講習パート2は以前と違いペーパーテストもダンシングテストもない、代わりにティーチングを徹底してたたきこまれる。この試験はティーチャーのデモとティーチングポイントの把握を最重要視しているせいでもある。マニュアルのフォーメーションの項は良く読んで記憶しておく必要性在り。ユニット5の試験は一発勝負なのでユニット4を疎かにしてはいけない。プレムの後2年間出来るだけ著名な指導者のウィークエンド・スクール、講習会等に参加すること。受験の前年セントアンドリュースサマースクールのティーチャースキルに参加をお勧めする。R.S.C.D.Sが何を望んでいるか理解できる。このような経験はしっかりレポートに書き込む。今回のアレックの労を惜しまぬ一生懸命振りにはいささか頭が下がる。巨体を揺すって決して綺麗とは思われないステップでどンドンデモする。バランスが取れないでヨロっとヨロける。それでも悪びれずデモする。何十年も指導を行っているのだから理論的に完璧なのだろうが残念ながら体がついていかない。カーディフ大学教授という職業柄、真面目な人柄が想像できる。生徒のステップに眼光鋭くサードにしっかりクローズせよ。トゥをもっと下げるとか各人に指摘する。

この人の一貫した教えは

言葉は最小限に、出来るだけデモをせよ

音楽は最大限に使え

一つ一つのフォーメーションのティーチングポイントをしっかり把握せよ

試験の順番は受験生 14 人でくじびきでした。エキザミネーターはレスリーマーチンとヘレンフレイム、2 人とも日本に何回か来た経験がある。

受験課題曲

**K E N      The Lady of The Lake**

**NOKO      Ladies' Fancy**

結果、ノコは足の故障で十分なデモができず、ギブアップ。私ケンのみかろうじてパスした。

最終日 8 月 12 日夜のヤンガーホールは、皆な受験が終わって、結果がまだ分らないので、にこやかに晴れ晴れ、MC ジョンウイルキンソン、英語の発音が聞き取りやすい。音楽は ロバートマッカイ、ジョージミーケル、バットクラーク、シーナスタロック。今年 4 週目の参加者が多くヤンガーホールは、すしずめ身動き取れない。ダンスを踊っているというよりも人の間をすり抜けるといった状態。最後にリンダゴールが今年で 3 年目退任の挨拶。チェアマン・スチュワートアダムから花束贈呈。次期サマースクール校長ジョンウイルキンソンが新任の挨拶で終了。

心身とも鍛え上げられた暑い夏の 2 週間でした。

## Featured Dances 2006~2007

### The Royal Scottish Country Dance

ソサエティは今年のダンスイベントのプログラム用に馴染みのあるダンスを Featured Dances として下記 10 曲を選びました。

皆さんの今年度のダンスプログラムに入れてはいかがですか。

Dance		Book	CD
Campbell's Frolic	J 32- 3 C	Book 15	Book 15
The Deil amang the Tailors	R 32- 3 C	Book 14	Book 14
The Dream Catcher	S 96- 4 C	Book 45	Book 45
The Gates of Edinburgh	R 32- 3 C	Book 15	Book 15
Inverneill House	R 32- 3 C	Book 35	Book 35
Jimmy's Fancy	S 32- 3 C	Book 14	Book 14
Lamb Skinnet	J 32- 3 C	Book 14	Book 14
Major Ian Stewart	J 32- 3 C	Book 35	Book 35
Round Reel of Eight	R 88- 4 C	Book 27	Book 27
Seann Triubhas Willichan	S 32- 3 C	Book 27	Book 27

ブランチ・クラスで取り上げたダンスほか(2006年4月～10月)

アドバンス・クラス

4/1 土	担当 小山 かおる ピアニスト 服部 雅好	8/5 土	担当 有田 典和 ピアニスト 本守 明美
1 A Trip to to the Drakensberg	J40-3C	1 New Ashludie Rant	J32-3C
2 Blervie Castle	S32-4C	2 Father Connelly's Jig	J64-4C
3 Miss Murray of Lintrose	R32-3C	3 The Haunt of the Gnomes	S64-Sq
4 Lord MacLay's Reel	R40-4C	4 On the Morning Tide	R32-3C
5/	-Exam のため休み-	9 2 土	担当 有田 典和 ピアニスト 本守 明美
6/3 土	《総会後の Social Dance》 MC 五十嵐 成子 ピアニスト 市川 洋子・村上 美枝子	1 Lucy Campbell	R32-2C
1 Joie de Vivre	J32-3C	2 Haddington Assembly	J32-3C
2 Merry Lads of Ayr	R32-3C	3 Loch Doon Castle	S32-5C
3 Sugar Candie	S32-3C	4 The Sleeping Warrior	S32-4C
4 Miss Nancy Frowns	J32-3C	5 Mr Morison	J32-2C
5 The Birks of Invermay	S32-3C	10 7 土	担当 鳥山 豊喜 ピアニスト 小海 弘子
6 A Reel for Alice	R32-5C	1 Blackadder House	S32-3C
7 Light and Airy	J32-3C	2 Miss Murray of Lintrose	R32-3C
8 Scott Meikle	R32-4C	3 Two Up, Two Down	S32-4C
9 Adieu Mon Ami	S32-3C	4 Ksumum Jig	J32-3C
10 Mrs Stewart's Jig	J32-3C	5 The Inimitable Derek	R32-3C
11 The Silver Tassie	S32-3C	6 Grant's Peel	S32-2C
12 The Montgomeries' Rant	R32-3C	7 The United Circle	R88-Sq
7/1 土	担当 鳥山 豊喜		
1 The Full Monty	R32-3C		
2 The Braes of Mellinish	S32-2C		
3 A Flock of Geese	J32-5C		
4 Ysobel	S32-3C		
5 Rising Phoenix	R32-3C		





インターミディエイト月曜クラス

4/3 月	担当	篠塚 昌子		7/3 月	担当	小山 かおる	
	1	My Mother's Coming In	R32-3C		1	Leap Year	J24-2C
	2	Strathglass House	S32-3C		2	Arthur's Seat	R32-3C
	3	The Moudie Wort	J32-3C		3	May Yarker's Strathspey	S32-3C
					4	The Kilt Maker	R32-4C
5/1 月	《エギザミナーによるクラス》						
		Elma M' Causland		8 7 月	担当	小山 かおる	
		Morag Napier			1	The Fyket	J40-3C
	1	Napier's Index	J40-3C		2	The Lammermuir Hills	S32-2C
	2	The Gilly Flower	J32-3C		3	Airdrie Lassies	J48-4C
	3	Anna's Wedding Cake	S32-3C				
	4	La Tempête	R48-4RR	9/4 月	担当	渋谷 明美	
6/5 月	担当	有田 深雪			1	A Man's a Man for a That	S32-3C
	1	Fiddlin Round	R32-3C		2	Wild Geese	J32-3C
	2	Flight of the Falcon	J32-3C		3	St. Andrew's Fair	J32-3C
	3	Cherry Bank Gardens	S32-3C	10/2 月	担当	渋谷 明美	
	4	Bonny Banchory	R32-3C		1	Duke of Perth	R32-3C
	5	The Dance Illustrator	S32-4C		2	Edina's Pride	S32-3C
					3	Da Rain Dancin'	R32-3C

ビギナーズ・クラス

	担当 鳥山 豊喜 ・ 五十嵐成子	7/10 月	1 Lady Catherin Bruce's Reel	J32-2C
	ピアニスト 村上 美枝子		2 Dashing White Sergeant	R32-6D
4/10 月	1 Linda Gaul's Medley	M32-3C	3 Greig's Pipes	S32-3C
	2 Starlight	R32-3C		
	3 Domino Five	R32-5D	7/24 月	1 Madge Wildfire's Strathspey
	4 The Rose of the North	S32-3C		2 Fairly Shot O' Her
				3 Mrs MacLeod
4/24 月	1 Fairly Shot O' Her	J32-3C		
	2 Burns Bicentenary S'pey	S32-4C	8/14 月	1 Largo Law
	3 Lumbrae Reel	R32-3C		2 Kingussie Flower
				3 Ye'll Aye Be Wellcome
	担当 五十嵐 成子 ・ 星野 薫			Back Again
	ピアニスト 村上 美枝子			4 Captain MacDonald's Fancy
5/8 月	Posture, Foot position, Bow, Turnsey			
	Dance の説明, Step change of step	5/26 月	1 St. Andrew's Fair	J32-3C
	Slip step, Formation 1-10		2 Wedderburn's Reel	R32-3C
	1 Highland Fair	J32-2C	3 Braes of Tulliemet	S32-3C
	2 Honeymoon	R32-3C		
			9/11 月	1 Balquidder Strathspey
5/22 月	Strathspey の説明			2 Reverend John MacFarlane
	1 Rakes of Glasgow	S32-3C		3 Express
	2 Sandy O'er the Lea	S32-2C		4 Wild Geese
6/12 月	Pas de basque の説明	9/24 月	1 Lass O' Livingston	R32-2C
	1 Lord Eglinton's Reel	R32-3C	2 Kitty Campbell's Reel	J32-3C
	2 Thistle	R32-3C	3 Marquis of Lorne	S32-3C
	3 Lady Lucy Ramsay	S32-3C		
	4 Kendall's Hornpipe	J32-2C	10/9 月	Formation の復習
6/26 月	1 Highland Plaid	S32-2C	10/23 月	終了パーティー
	2 Petronella	R32-2C		ダンスを楽しむマナー
	3 Carl Cam' Ower the Croft	R32-3C		
	4 Hast to Wedding	J32-2C		

## The Bombing Raid・・・

小海弘子

「Hirokoの髪が〇〇〇でGrayに変わった」・・・この〇〇〇何だと思われますか？  
今年のSummer School Week 2 でのことです。「一緒に弾いてもらえる？」思いがけなくも嬉しいDavid Queenからの一言に「モチロン！」二つ返事で引き受けたものの、前日になっても渡されない楽譜に“もしかしてぶっつけ本番？”この不安は見事に的中！  
当日のMusician 5人がOld Dining Roomに顔をそろえたのは、本番開始25分前。時計の針を気にする私を横目に、男性4人は座る位置などを確認。そして楽譜が取り出され次の瞬間“ウソ”ナント、プログラムを横に置き楽譜をSetし始めるDavid・・・  
“イマゴロナニヤッテンダ！？”言葉にしなくとも顔に出たのでしょうか。ニイッと笑うと「Hiroko Don't Panic！」アコーディオニスト3人は？と見ればノンビリとおしゃべりそして、この時〇〇〇はまだ窓の外。この後どうなるかなど誰にも分かるはずもなく、この夜のSocial DancingはFiona Turnbullによってテンポよく始められました。コールの間に楽譜がPianoの前に並べられ、順番が指示され「OK？」目を白黒させながらのJampingも恐ろしいもので（？）“フーン何とかなるものねエ”といつしか気は大きくなり、5人でのPlayを楽しむ余裕も出てきたというのに、コレに水を差したのが〇〇〇の大群！窓の外で待機していた彼らはなぜかMusic Startと同時に入り込んできて途切れることを知らず。その数ハンパじゃなく、勢いは増すばかり！  
私の髪を襲ってくる彼らはFionaが払ってくれるものの、とても追いつかず、指先の異様な感触に“ナニ？”と鍵盤に目をやれば・・・エッ私が潰した？鳥肌が立ち、背中に入り込んでくることに身震いしながら「ヤダァー！」「キャ！」モロ日本語の“合いの手入り”のVamping それを始めるうちこそ「Don't Worry！」などと笑いながら余裕を見せていた男性人も、ところ構わずの体当たり襲撃に顔をしかめ、体をくねらせ始めた。  
ついに見かねたのでしょうかFionaが「もうこれ以上Musicianたちはplay出来ないこれでオシマイ！」と終了宣言。数曲残して、“The Bombing Raid (Geoge Meikle いわく)”の前に降参となってしまいました。いつになく暑かった今年の夏、窓を開けばなしにしてやらざるを得なかったがためのハプニング。終了後Fionaが会う人ごとに言っていたのが出だしの一言なのです。

今、思い出しても、とり肌が立ってきそうな...でも、とても楽しかった。そして鍛えられた？今年のSummer Schoolの忘れられない思い出です。

ところで 〇〇〇・・・おわかりになりましたか？ 正解は “羽アリ” デシタ・・・

## お久しぶり！“スコットランド”

近藤 幸子

今年の夏、4回目のスコットランド行きを果たした。初めはまだSCDを踊ってなくてただの観光旅行。2回目は松橋順子さんと私は何も分らずにエアーで行われたAGMへ顔を出し、3回目は何周年かのサマースクールへ参加。そして15年ぶりの4回目である。

久しぶりのサマースクール、何か気が重いな・・・と飛行機の中でうとうとしていたら、シートベルト着用のサイン。慌ててパチンとしようとして“うん？”いくら機内食を残さず食べたからって、10数時間動かずにいたからって“こんなに肥っちゃったの？ワァー大変！隣の中川幸子さんは両手に長いベルトを1本ずつ持ってこれまた不思議そう・・・彼女と目が合ったとたん2人とも大爆笑。そう、私は自分のと彼女の短いほうを2本持っていたわけで、これじゃいくらスマートでもはまるわけがない。2人とも涙が出るほど笑い転げ、事情を知った同行の佐藤雅紀・仁美夫妻、渡辺清一・悦子夫妻、掛川純子さんも大笑い、おかげですっかり気が楽になった。

エディンバラで1泊。翌7月30日バスでセントアンドリュースへ。こんにちはフォースブリッジ！ローラス駅のあの階段はどこ？ニューホール・ここって確か池だか沼だかがあった所では？バスターミナルも近代化に向けて改築中で早くも“おのぼりさん”気分である。写札をミュージックホールに預け、ニューホール裏のハイランドゲームズ会場へ。1,2連目を終えた、小海、武内、金田、犬飼さん、能代の人達と会う。すごく暑い1週間だったとて、まだ暑い日本から行った我々には暑いけれどもカラッと乾燥した空気はさわやかだった。夕方から街へ出てみる。そうミュージアムの後ろを通過して大通りへ出る前の小さな庭園、何処だ？昔はチューリップ・バラ・ダリア・百合もいっせいに咲き乱れていて歓声を上げたものだったのに。今年は天候の故かそれとも人手不足なのか背も短くて、赤いバラがちらほらとあった感じだった。ホープパークチャーチのあの丸窓はあんな真白だったかなと思いつつながらマーケットストリートへ。懐かしい！でも私が覚えていたよりずっと派手な色づきのお店が増えている。なんとスターボックスがある！改装中の店も沢山あったが、どピンクやどブルーなんかちょっと違うんじゃないかな。スーパーはととても大きくなっているし、冬吉の商品もいかにもお土産品といったものが多い。もつとしっかりと落ち着いていた、たまたまの筈と思うのは私の憧れだったのかも。“セントアンドリュースよ、お前もか！”という感じを抱いてしまった。

掛川、中川さん、私の1組はユニバーシティホール。夫婦組はラムスデンと分かれて荷物を解き、休む。

いよいよスクール第1日目、雅紀、清一、中川さん達のクラスはずっとヤンガーホール。仁美、悦子、掛川さん、私のクラスは1時間目がホーリートリニティチャーチホール。2時間目がボーイズブリゲートホールと一番遠いところだった。1時間目はアン・ディックスが、

ティーチャーでロバート・マッカイがピアニストそして 2 時間目はアンドリュー・マッコネルとドーリーン・ソームのコンビだった。今年は新曲がすぐ手に入らない。何故か全体的に参加者が少ないとのこと。私達のクラスは 25 名くらいで、エルマ・モーリン・ヘレン・リンダそしてイアンホールそのほか名前は分らないが、そうそうたるメンバー。ドイツからの若いカップルが目立ったが男性は 2 人、あとは中高年の女性ばかりで日本と同じようである。アンはテキパキと分りやすい指導、ロバートはおしゃれで毎日スーツを換え、ハットをかぶったり、胸のチーフを色どりよく、たまには花をさしたりして、お鼻が真っ赤なのにとでもダンディー。彼は言うまでもなく必ず音楽について話をしてくれた。(1/4 位しか分らなくて申し訳なかったと思う) アンドリューはまだ若そうが良い両親に育てられたのでは・・・と思わせる礼儀正しさとでキチンと指導してくれた。そうそう或る貫禄のあるご婦人が彼に“リールとジグのバ・デ・バスクを踊って見せて”とのたまひ、私達は顔を見合わせてしまったが彼は悪びれず堂々と踊って見せた。ドーリーンはお年を召したピアニスト。メリー・マナーが MC をしたオールドダイニングルームのパーティで「オータム・イン・アピン」を 6 回演奏したことを思い出す。アンといえはある朝向こう側の道を歩いているのと一緒になったのだが、右・左と足の運びはまったく同時なのに彼女はどんどん先へ進んで行き見えなくなってしまった。無理もない、彼女の足は私達の胸の辺りからあるのだから。(長身なのだ) 一步の距離が全然違う、4 人でしみじみと足の長さについて論じ合ったものである。(セットの幅の広さで苦労していたこともあり)

ヤンガーホールでのパーティもダンサーの高齢化、男性の少なさが目についた。男性は日本より多いようだがリタイア後に始めた人達がいるようである。経験の少ないダンサーも参加していたようだが、マナーは良かったと思う。レスリー・マーチンもジョン・ドゥルリーにも逢えて楽しかった。毎日遠い道を良く歩いたが、第 3 週目はとても涼しく過ごしやすかった。大雨の降った日が 1 日あったが非常に寒くてボーイズブリーダーの椅子の後ろにはお湯の通った暖房機があったほどである。

佐藤夫妻の部屋の話。夜、帰りが遅くなり入れなくて困ったこと。食堂、ニューホールのことなど、面白い話が沢山あったが長くなるので省略する。

私達は 5 日目(金)のクラスを終えて、セントアンドリュースを後にして日本から来た人達と合流し 10 日間の観光を楽しんだ。その観光中でびっくりしたことを 1 つだけ。エディンバラのホルロード宮殿のすぐそばに議事堂が建てられていたが、その建物のモダンなことと言ったら形容できない位。古い建築様式を随所に取り入れてあるそうだが、ガラスが沢山使われていてピカピカといった感じだった。

帰国時の空港では、テロ事件の直後だったため得難い経験をした。思い出となればどれもこれも楽しいものである。

セントアンドリュースの街の石だたみ、ウエストポート、そしてクラスの行き帰りに聞いたかもめの鳴き声は 15 年前と変わらなかったと、折にふれなつかしく思い出している。

## 暑いのは韓国も同じ

Tom Toriyama

ソウルの東、車で2.5時間ほどのキャンプ場で開かれた韓国フォークダンス協会 IFDAK のサマーキャンプに参加した。キャンプ場は江原道・北漢江の支流に面し、いちばん近い市街地から30分、谷あいを整設である。収容人員は40人で、スポーツや音楽の合宿に使われているという。

8月11日(金)は朝14時～17時まで、フォークダンス(先生:香港土風舞總會 FDAHK のジョシュア・ツァン)、スクウェアダンス(先生:IFDAKの朴女史)、SCD(先生:五十嵐成子)、音楽:村上美枝子(1)まで互に踊られた。時間割を渡されたが、時刻どおりにやらないのが韓国流、延長あり、メニューでおおらかである。14人の女子小学生が参加しており、彼女らは別プログラムで受講していたが、特別にSCD指導をたのまれた成子さん、1時間を講習した。

昨年にも引き続いて第2回SCD講習であり、成子さんは progressive teaching を考えて講習ダンスを3曲ほど用意していたが、昨年の参加者は3分の1ほどで、再びビギナーズ・クラスの町目をはるかに離れた。しかも大人のクラスであるのに女子小学生が加わっている。Fiddlers と Glasgow Highlanders を指導したが、香港・ジョシュア指導の楽しいフォークダンスとは対照的に参加者にはむずかしすぎ、ティーチャーも受講者も苦勞するクラスとなった。SCD指導者は参加者の顔ぶれに応じ、臨機応変に講習ダンスを変える必要がある。SCDダンスにこだわらず、簡単で楽しいダンスをレパートリーに入れておくことが大切である。コンディス・ステップ・ダンシングも初めて行なわれ、これは大人のクラスであったため、技量・表現力について欲をいえばきりがないけれども、参加者は十分に楽しんでいた。

13日村上美枝子さんの報告を読んで辛さ対策用に非常食を用意していたが、すべてほどよく食べて、非常食には手をつけませんでした。中田多鶴子さんによれば、小学生も参加して、暑さで水分の制限しているのだろう、とのこと。連日の猛暑で、日本の夏とまったくかわらなかつた。

帰路、IFDAK の本部に立ち寄った。会長であり、サンミュン大学生涯スポーツ学教授の朴女史(博士号所有)の大奮闘により出来上がった本部は、5階のフロアにある。6セットはできるくらいのすばらしいホールがあり、まったくうらやましく感じた。東京ランチも5億円ほどの余裕をつくり、このようなホールを所有したいものだ。

## 最近の本部のうごき

- \*スコットランドのみならず、世界各地に RSCDS 商品の販売促進を図るため「マーケティング部長」を雇用することがきまり、会員サービス委員会で雇用条件・資格を検討している。
- \*役員会で長期戦略の見直しを行なっている。年次総会までに終わらせる予定。
- \*次号 Scottish Country Dancer でテクニク小委員会の発足を発表する。
- \*Scottish Country Dancer は引き続き好評を得ている。次号（2006 年秋号）で新ダンスを複数発表するが、将来は春号で公表するかもしれない。
- \*役員会で（いまの王冠マークに変わる）新しいソサエティ・ロゴを承認した。
- \*年会費をギフトする仕組みをつくれなにか、総務・財政委員会で考慮中である。
- \*ソサエティ規約の改正案がまとまり、原案を 8 月に各ブランチに送付する。
- \*ソサエティ・タータンのデザインがきまり、11 月の年次総会で見本のキルトを公開したい。
- \*改装のため、2007 年のサマースクールはユニバシティ・ホール（収容 250 人）が使用不可となる。ヤンガーホール裏手のセント・サルバドール学舎 St Salvador College になるが、収容は 150 人である。申込が遅れると自分で宿を探すことになる。

## 新 CD・Book 紹介（トム鳥山）

### Index to Formations and Movements in Scottish Country Dances

RSCDS 全ダンスのフォーメーションとムーブメントのインデックス（索引）である。フォーメーション・インデックスは 1996 年版を最後に改訂・出版が途絶えていたが、このほど内容を全面変更した新装版が発行された。内容は大きく二つに分かれ、

Part 1 - Formations どのフォーメーションはどのダンスにあるか、Advance and retire に始まり、Hands round, Lead down and up, Set and cast off or up から Wheel chain までを記載している。ちなみに一番多いのは 'Turn'、ついで 'Set' である。

Part 2 - The Dances どのダンスにはどんなフォーメーションがあるかを、ダンス名のアルファベット順で記している。ほとんどのダンスは 4 ないし 6 つのフォーメーション・ムーブメントから成っていることがわかる。最多フォーメーションは Prince Charles of Edinburgh (160 bars Reel, Book 39) の 13 種、最小は Lead down and up だけの Off she goes (16 bars Jig, Book 8) と The Priest and his Books (24 bars Jig, Book 7) で、まともな長さのダンスでは Miss Murray of Lintrose (32 bars Reel, Book 27) の 2 種というのがある。

RSCDS 全ダンスと述べたが、マクナブ・ダンス類および The Bumpkin (Book 2) などの特殊ダンスはこれには含まれていない。クラスにおいて、あるいは各フォーメーションをまんべんなく取り入れようとするダンス会のプログラム立案において、このインデックスの



利便性はいうまでもない。全 166 ページ、重量は 0.6kg あり、国内郵送料は 340 円、国際小包料金はその数倍であるため、いささか高価な買物となる。が、心ある指導者にとっては必携のものである。〔注文略号：フォーメーション・インデックス〕

**The Blackwater Collection devised by Alan Davis, and the CD by Ian Muir and the Craigellachie Band (SHIEL CD024)**

Gay Gordons. The Bell Ringer (8x32J), Crossing the Tay (4x32S), Wortham Manor (4x48R). Waltz. The Osborne Percentage (3x32J), Farewell to the Highlands (4x32S). Closeburn Lassies (8x32J), The Blackwater Reel (8x32R), The Double Top Jig (8x32J). The Dornie Strathspey (8x32S), Two-step, Forever Friends (8x32R)

ロンドンに居、シェディングに住むアラン・デイビスのダンスブックとその CD である。The Blackwater Reel は RSCDS Book 41 のちょっと疲れるダンスであるが、このダンスブックにも再録している。Crossing the Tay はアランが所属する B/H/S ボーダー・ブランチの言語、アール・メイザーのハッピー・リタイアを記念してつくったもの。三角セットの The Osborne Percentage、Petronella 多用の Wortham Manor、セットの真ん中で Reel of three (三三三) Closeburn Lassies などおもしろい。ただし、いくらか奇をてらいすぎの感もある。ダンスブックには一部楽譜つき。イアン・ミュア・バンドの演奏は軽快で楽しい。演奏スピードは標準的である。32 小節のおわりに演奏が一瞬空白となるトラック、フィドルのソロにうつったとき演奏全体がおわったと誤解させるトラックもあるので留意すべきである。〔注文略号：ブラックウォーター・ブック、ブラックウォーター CD〕

**RSCDS Birmingham Diamond Jubilee Dance Book, and the CD by George Meikle and his Band (BB D0601)**

Langleys Road (8x32J). The Outer Circle (8x48R), The Cannadine Strathspey (4x32S), The Physician's Fancy (8x32J), St Andrews Roundabout (4x32R), Furth O'Clyde (3x32S). The Chocolate Factory (4x32J). New Dixon Quadrille (4x32R), And Happy Meet Again (4x32S), The Grumpy Gentleman (8x32J), The Floosie in the Jacuzzi (2x48R). Anita's Dance (5x32S). South Street Harborne (8x32J), The Jewellery Quarter (4x32R). Second City Strathspey (8x32S)

バーミンガム・ブランチが 60 周年を記念してダンスブックと CD を製作した。寄せられた候補 36 ダンスから 15 ダンスを選定したという。タイトルは英国第 2 の都市である同市にちなんだものが多い。同ブランチの代表であった故アナ・ホールデンのダンスも 2 つ入っている。15 ダンス中に 8x32 Reel は一つもないという、おもしろいブックである。それぞれ「ナルホド」と思わせるダンスで、わたしは The Floosie in the Jacuzzi 「ジャクジーの中の尻軽女」(ブック表紙に写真あり) が楽しかった。すべて楽譜がついている。ジョージ・ミークル・バンドはストラスペイを本来のスピードで、いまのならいから言えば特

急で演奏している。8x32 が 7 分 50 秒である。全トラックともシャープでめりはりのきいた好演奏である。〔注文略号：パーミンガム・ブック、パーミンガム CD〕

**Reel Friends Book 3 devised by Ann Dix, and the CD by George Meikle and his Band (ADPCD003)**

The Crawfords of Kerrera (8x32J), Amstel Court (3x32S). The First of September (4x32R), Vive La Danse (8x32J), Pawling in May (4x32S). Little Leigh (8x32R). Montparnasse (4x32S), A Jig for Denise (8x32J). Nether Kellet (4x32R), Green Ginger (8x32S), Island Celebration (4x32J). Rachel's Strathspey (3x32S). Shinkansen (The Bullet Train) (8x32R). Tammie Norie Jig (4x32J). Silver Halsway (4x32S), The Committee Meeting (8x32R)

1999 年から 2005 年まで、アン・デックスが作ったダンスの集り本である。Vive La Danse や Shinkansen などホー（フランス）、鎌倉で踊られたダンスが含まれている。ダンスの中身をくわしくチェックしていないが、上記 2 種のダンスブックにくらべ従来のフォーメーション、ムーブメントを多用しており、奇をてらったところがない。カタカナ読みを述べれば Little Leigh はリトル・リー（ビビアン・リーのリーと同じ）、Montparnasse はモンパルナス、Denise はフランス語風のドニーズ、Halsway はホールズウェイとなる。全ダンスにメロディとコードの楽譜つき。

ジョージ・ミークル・バンドの演奏は上記パーミンガム・ブックにくらべ、ややおとなしい。パーミンガム・ブックは三重奏、こちらは第 2 アコーデオンのない四重奏であるためか。鎌倉でデイブ・ホールとジェディス・スミスが演奏した Shinkansen はこの CD よりももうすこしダイナミックであった。Montparnasse はイタリア・バロックの名曲がオリジナル曲になっている。おとなしい演奏と述べたが、そのぶん粗いところがなく、気分よく踊れると思う。〔注文略号：リールフレンズ・ブック、リールフレンズ CD〕

以上の商品のご注文は…… 郵便振替 00240 - 0 - 63517 東京プランチ

フォーメーション・インデックス	¥4,700
ブラックウォーター・ブック単品	¥1,300
ブラックウォーター CD 単品	¥3,500
ブラックウォーター・ブック + CD セット	¥4,500
パーミンガム・ブック単品	¥2,000
パーミンガム CD 単品	¥3,500
パーミンガム・ブック + CD セット	¥5,000
リールフレンズ・ブック単品	¥1,200
リールフレンズ CD 単品	¥3,500

締切り 12月15日(金)

お渡し予定 1月末 担当 荒井千文 T/F 049-247-5468

## 新しいダンス (ジョン・ローリー、ロンドン支部)

ソサエティは今後新しいブックを出版しないことをきめた。本部役員会で新たな見直し  
がなされるまでという条件付であるが、静観するしかないだろう。

ブランチや個人創作の新ダンスブックが続々と現れているので、新ダンスに不足する  
ということはない。

いま、わたしはバーミンガムとバンフシャ支部発行のダンスブックを手をしている。く  
わしく内容をあたっていないが、バーミンガム・ブックには新しくて面白そうなフィギュア  
が含まれている。すなわち Diagonal Chain Progression や Demi-Tournée である。「新  
しいフィギュアはもうカンベン！」という人には、易しいダンスの多いバンフシャ・ブ  
ックを取り入れては、と思う。

両ダンスブックとも全ダンスにオリジナル・チューンとその楽譜がついている。バンフシ  
ャ・ブックはすでにポピュラーでレコードのある曲も、きちんと楽譜をのせている。イ  
アン&ビル・パウリーの Margaret's Fancy には感心したし、ウィニフレッド・マシユの  
Miss Jean Milligan にはおもしろい。この Miss Jean Milligan は、現在 Angus Reel の  
オリジナル・チューンになっている。Angus Reel (128 bars square Reel) は 1948 年、25  
年にわたるソサエティへの貢献をたたえ、ミス・ミリガンにささげられたダンスである。  
チューン Miss Jean Milligan を他のダンスに用いることが許された事情とは？ くわしく  
は、次号の RSCDS マガジン Scottish Country Dancer を読んでいただきたい。(New  
Dances' by John Laurie, from The Reel No.257, Sep-Dec 2006. By the courtesy of the  
RSCDS London)

## グループ行事案内

葛 飾 S . C . D . C .

創立 21 周年 パーティー

2007 年 3 月 25 日 (日) 12:00~16:00 会費 ¥1,000 (保険料を含む)

葛飾区総合スポーツセンター 「エイトホール」

葛飾区高砂 1-2-1 Tel 03-3695-9911

尾身信晴 Tel 03-3697-5838

## 会員の皆様にお願い

1. 東京ブランチ賞候補者推薦
  - 1 長年にわたり東京ブランチ活動に貢献した人、もしくは近年東京ブランチ活動に著しい功績を挙げた人を受賞候補に推薦できます。東京ブランチ会員のどなたでも受賞候補者を推薦でき、かつ東京ブランチ運営委員会も受賞候補者を推薦することがあります。
  - 2 RSCDS 規定により、受賞候補者は推薦時に RSCDS 会員である必要があります。(物故者を推薦することはできません)
  - 3 受賞候補者の推薦に当たっては、東京ブランチ会員である、2名の推薦者の自筆署名が必要です。
  - 4 推薦の締め切りは **12 月末日**。授賞は翌年 2 月に行います。
  - 5 東京ブランチ運営委員会において受賞者（毎年 1 名。該当者なしのときもあります）を決定します。
  
2. 不要なはがきなどの寄付をお寄せください。  
書き損じのはがき、切手などブランチクラスの時、受付の運営委員へお渡ししてください。
  
3. ティチャー資格を持っている方、ブランチ活動の活性化を推進するためクラスに参加してください。
  
4. ありがとうございました。  
篤志家より 5 万円の寄付がありました。有効に活用させていただきます。